

三才児の精神発達にかかわるスクリーニングテスト 及び精密検診の標準化に関する研究

研究第8部長 牛 島 義 友

I 目 的

三才児検診を行なうことによつて日本の幼児の健康保持、問題の早期発見に効果をあげているが、この場合に身体発育や歯牙の発育などについて検査されるが、精神発達について検診されることはあまりなかつた。それはそのことの必要性が少ないためというよりも適切な方法が見当たらないのが主な原因であつたと思う。三才児ともなれば親たちの育児の配慮も健康や栄養の点から、しつけや教育の方面に移つているし、また精神薄弱児、情緒障害児に対しても早期に発見し適切な指導や治療を行なうことが必要な時期である。

この精神発達や情緒障害、あるいは自律的態度のしつけ等に関しては従来乳幼児精神発達検査その他によつて検査することができたが、このためには熟練した検査者とかかり長い検査時間を必要としている。ところが今日の三才児検診は保健所を中心として行なわれ、保健婦たちの協力によつて行なわれている。けれどもこの人たちは

精神検査に慣れない。児童相談所などの協力を得て精神方面の検診を行なつているところもあるが、全国的に実施するには心理学者の判定員を動員することも困難であろう。従つて現場の保健婦たちで充分に利用できる検査が作られることが望ましい。またこの検査のために長い時間かけることも実用的でない。せいぜい5分か10分の短時間のうちに検査する必要がある。

もとよりこのような簡単な検査で確定的な診断を下すことは誤まつている。問題のあると思われる子どもについては当然専門家をわずらわして精密検診を行なう必要がある。しかしこの精密検診を受ける必要があるか否かを選分ける程度の検査ならばこのような簡単な方法でも可能なのではなからうか。このような精神発達に関したスクリーニングテストを作製するのがこの研究の目的である。

II 方 法

1.

このスクリーニング・テスト作成にあつて知的発達と社会的な生活能力および情緒障害の三方面から調べることとした。しかしこの研究は林脩三氏(大阪市児童相談所長)、菅野重道氏(国立精神衛生研究所精神薄弱部長)、篠原清彦氏(岡山県中央児童相談所長)と牛島、津守の研究で行なうことになつているので、精神発達に関しては大阪地区について林氏が研究し、社会的能力に関しては東京、松戸、沼津地区で菅野氏が研究し、情緒障害に関しては岡山地区で篠原氏が研究分担することとした。この三人の研究者の研究目的はそれぞれの領域に關した適切な検査項目を選びだすことである。即ち項目分析を行つて有効な小項目を選びだしてもらうことである。次にこれらの項目の中から一つの検査にまとめあげて全国に適用できる規準を作りだすのが牛島たちの日本

総合愛育研究所における研究分担である。

昭和39年の10月までに前三者の仕事を完了し、それに引き続いて年度内に検査を完成するのが当初の予定であつた。

前三者の研究に関してはそれぞれ別個の研究報告があるので省略するが、その研究結果から選び出された項目についてのみ触れておく。

(1)

林氏は津守氏の乳幼児精神発達診断法を三才一か月児196名について検査を行なつた。この検査の中には運動機能や知的発達の他に社会的な能力についての項目も含まれているが、そこで発育の進んだものと遅れたもの二群について弁別力の高い項目としては次のようなものが選びだされている。

- (1)三輪車にのつてこぐ
- (2)鉄を使って紙、布を切る

- (3) 積木でトンネル、門の形をつくる
- (4) 鉛筆、クレヨンで丸をかく(一つの丸であること)
- (5) 一度期待をもたせてしまうとだましがきかない(外へいくといつて連れていかないと泣く)
- (6) 年下の子どもの世話をやきたが(だっこしようとしたり、たべさせようとする)
- (7) ふざけて母をへやから出さないように戸をおさえてしまう
- (8) 友だちとけんかをするといいつけにくる
- (9) 電話ごつこでふたりで交互に会話ができる
- (10) 飲みこまないでブクブクができる
- (11) 衣服の着脱をひとりでしたがる
- (12) はしを使ってじょうずに食事をする
- (13) 夜中におしっこにいきたくなると母をよぶ
- (14) どんなに夢中になって遊んでいてもおもしろい
- (15) 自分でパンツを取って用をたす
- (16) ひもの結び目をほいて着物などをぬぐ(物を出す)
- (17) 赤、青などの色の名前がわかり、その正しい色をさす
- (18) 名前をきくと姓と名という
- (19) 自分の名前をいれて話をする
- (20) 一つもつてきてさらに「モウツ」をちようだいという

(2)

菅野氏の調査では社会的能力の他に成育条件などを2884名の三才児につき保健所を通して検査されたが、それぞれの項目についての合格率が示された。その時の問題は次のようである。

- (1) 簡単なじやまものを克服する
- (2) 食物をつかむ
- (3) ひとりでコップからのむ
- (4) スプーンをつかう
- (5) キャンデーやキヤラメルをつつみ紙をはがす
- (6) ソックスを引張つて脱ぐ
- (7) 排便を知らせる
- (8) よく知っている物ならいわれればとつて来たり、もつていつたりする
- (9) ペン、クレヨンで何か書く
- (10) 助けなしで部屋の中を歩き廻る
- (11) 家の中や庭を歩き廻る
- (12) よく知っているものをいうのにその名前を言う
- (13) 人みしりをする
- (14) 短い文章を話す
- (15) 他の子供と遊ぶ
- (16) あぶない物に気をつける
- (17) おはしが使える
- (18) コート、上着をひとりで脱ぐ
- (19) 夜のおむつを使わない
- (20) ひとりで手をふく
- (21) ハサミで紙を切る
- (22) 階段を昇り降りできる
- (23) 経験、出来ごとを話す
- (24) 大人に対し、時として拒否や抵抗を試みる
- (25) 他の子供と仲よく遊べる
- (26) ひるねをしない
- (27) 食事を大体こぼさないでできる
- (28) コート、上着をひとりで着る
- (29) コート、上着のボタンをひとりでかける
- (30) ひとりで鼻をかむ
- (31) ひとりで手を洗う
- (32) 家の中の簡単な仕事のお手伝いができる

- (33) 足を交互にだして階段をおりる
- (34) 同年輩の子供に対し笑いかける
- (35) 自己の所有物を固執する
- (36) 人の前で歌をうたつたり、おゆうぎができる
- (37) 簡単なひもの結びが解ける
- (38) 食事を附添いなしでできる
- (39) ひとりで顔を洗う
- (40) ひとりで便所へいき、用がたせる
- (41) ひとりで歯をみがく
- (42) 結ぶこと以外はひとりで着物又は洋服がきられる
- (43) 鉛筆、クレヨンで描画する(書いたものが形になっていなくてはならない)
- (44) 附添いなしで近所を歩き廻る
- (45) 大人に対し時として反抗的になる
- (46) 金切声をたてて泣いたり甘つたれたりすることが少なくなつた
- (47) 仕事やゲームで他の子供と競争してやるのを喜ぶ

(3)

篠原氏は岡山地区において情緒の発達を中心としてさらに精神発達や社会的能力などについても4653名に検査を行ない、正常児と問題児について弁別力の高い項目を選定された。その中で情緒や習癖に関する項目は次のものである。

- (1) 何かいうとすぐに誰かにくつきたがりますか
- (2) 間食をしますか
- (3) たべものに好き嫌が多いですか
- (4) しつけはどのようにしていますか
- (5) 弱虫ですか
- (6) 衣服かじりのくせがありますか
- (7) 性器いじりのくせがありますか
- (8) 夜泣きしますか
- (9) どもりますか
- (10) 動物をこわがりますか
- (11) 夜尿のくせがありますか

(4)

以上の基礎研究によつて多くの検査項目が選びだされたが、これらの間には重複しているもの、あるいは類似の項目も少なくない。従つてこれを整理して一応本検査の原案をこしらえることとした。この場合に検査の柱として、運動、操作、理解、社会、自律、情緒の六つをたてた。このうちはじめの運動、操作、理解は知的発達に關係したものであり、社会と自律は社会的な生活能力に關係したものであり、社会と自律は社会的な生活能力に關係したものであり、社会と自律は社会的な生活能力に關係したものであり、社会と自律は社会的な生活能力に關係したものである。なお情緒は不適応行動が列記してあるのでそれのないもの(いい)の方で得点をだすこととした。即ち情緒の健全性を表わす点数とした。なお検査項目の他に育児条件などについても簡単に調べることとした。

運動

- (1) 階段を這つて昇る
- (2) 手すりや片手に支えられて昇り降りする
- (3) ひとりで一段ごとに両足をそろえ昇り降りする
- (4) 足を交互に出して階段を降りる

操作

人の顔を描く時

- (1)何か描くが形にはならない
- (2)円い形になっている
- (3)目、口を描く
- (4)眉、毛髪を描く

理 解

- (1)数をとばさないで3つまで言う
- (2)数をとばさないで5つまで言う
- (3)数をとばさないで10まで言う
- (4)数をとばさないで13まで言う
- (5)二語文以上を言う
- (6)赤、青の名がわかり正しい色を指す
- (7)名前をきかれて名前を言う
- (8)名前をきかれて姓を言う
- (9)僕、私などを使つて話す

社 会

- (1)友だちと手がつなげるようになる
- (2)友だちの名前が言える
- (3)友だちとけんかをすと言いつけにくる
- (4)電話ごっこで二人で交互に会話ができる
- (5)人の前で歌を歌つたりお遊戯ができる

自 律

(着衣)

- (1)靴をひとりでぬぐ
- (2)上衣をひとりでぬぐ
- (3)上衣をひとりで着る
- (4)簡単なひも結びがほどこける

(排泄)

- (5)大便をまちがえなく教える
- (6)おしっこの前に教える
- (7)夜のおむつが不用になる
- (8)パンツをとつて用をたす

(清潔)

- (9)ひとりで手を洗う
- (10)ひとりで顔を洗う

情 緒

- (1)何か言うときすぐ誰かにくつつきたがりますか
- (2)間食をほしがり、ごはんを余りたべないですか
- (3)たべものに好き嫌いが多くて困りますか
- (4)弱虫ですか
- (5)どもらますか
- (6)犬などをこわがりますか
- (7)衣服をかじるくせがありますか
- (8)性器いじりのくせがありますか
- (9)夜泣きのくせがありますか
- (10)夜尿のくせがありますか

この原案から本検査の規準設定までにさらに二段階の
 手続をとることとした。即ち第一段階を予備検査とし、
 ここではこの原案の項目をさらに再検討し、都市や農村
 の現場において充分使用しうるか否かを調べた。またス
 クリーニングテストは、できれば母親たち自身で評定し
 て記入してもらおうと一層便利であるので母親でも大きな
 誤差なしに検査ができるかなどの信頼性に関する検討を
 加えた。またこのように簡単な検査であつても一応は総
 合検査であるので各領域の内部相関を調べたり、また問
 題児、特に精神薄弱児などの選分けにとりだけ有効であ

るかなどの妥当性の検討を加えることとした。このため
 に愛育研究所を中心として2~4才児の母親(160名)
 についての検査とか、精神薄弱児の幼児グループ(21
 名)について検査を行なつた。また母親の評定と教師の
 評定との一致度をみるために32名について教師に評定
 してもらつた。

2

これらの作業を12月から1月にかけて行なつた。次
 に本検査として若干の修正を加えたものを用いて保健所
 の三才児検診の現場において施行した。この場合には原
 則として母親に記入してもらい、それを受取る時に簡単
 な問診によつて記入の正確度をたしかめることとした。
 もつとも特殊な農村などにおいては親に記入してもら
 うことが困難で調査者自らが質問して記入したものも少
 くない。この検査の規準設定のためには地域性を考慮し
 て都市化の程度の異つたものを拾いだすこととした。そ
 の結果次のような地区1,356名について検査した。

第1表 都 部 別 人 数

	地 区	人 数	所 在 地
東 京	東 京	160	2.3才幼児グループ他
	澁 谷	130	東京都渋谷区
中 小 都 市	宮 古	38	岩手県宮古市
	新 津	271	新潟県新津市
	小 千 谷	54	新潟県小千谷市
	狭 山 横 浜	243	埼玉県狭山市入間川他 神奈川県横浜市神奈川区
町 村	葛 巻	41	岩手県岩手郡葛巻町
	小 出	71	新潟県北魚沼郡小出町他
	狭 山	103	埼玉県狭山市水富・奥宮他
	加 茂 日 出	94	岐阜県加茂郡七宗村 大分県速見郡日出町
	合 計	1,356	

この場合東京の渋谷は毎月第四水曜日に地区の三才児
 になつたばかりの子どもについて検査することになつて
 おり、大体年齢は三才一か月が主である。この中には住
 宅地も商店街も含まれ、工場勤務者などはないが雑多
 な職域の家庭であつて、今日としては東京の下町的要素
 を呈している面もあるといえよう。

横浜市神奈川保健所は横浜市内ではあるが以前は農村
 なども多い勤労都市的性格で東京や横浜に通勤するサラ
 リーマン、工場勤務者などが含まれるので大都市の中に入
 入れた。

狭山市は埼玉県の新都市であつて所沢保健所管内の場所である。この中には純農村というべき地域も多数含まれているのでそれを区別して狭山市の中でも小都市の性格をもっているものと農村的なものを分けて集計した。小都市の性格の地区ではサラリーマン、商業農業などが含まれている。

小千谷市は新潟県の伝統の古い町で商業か家内工業の職業に従事する親たちが多かつた。

新津市は商業、交通関係の職業に従事するものが比較的多い新潟県の小都市である。

宮古市は三陸沿岸の古い港町であり漁業、商業の親たちが多数を占めていた。

町村として分類したものでは葛巻は岩手県岩手郡にあり、盛岡からバスだけでつながっている。ここは農村ではあるが以前は炭やきなどをやっていたのが最近はそのをやめて父親は他に出かせぎに行つているような土地柄で、電灯のついていないところもある程度の文化的刺激の非常に少ないところで、ここでは親に記入してもらう

ことがほとんど不可能であつて、こちらから出向いた調査者が自ら問診して記入しなければならなかつた。その印象としても文化の程度は最も低く、子どもにはまだ絵をかかせたこともないというような状態であつた。おそらく全国的な農村の水準からみても最も低いものに属するのではなからうか。

小出は新潟県北魚沼郡小出町その他で上越線に沿つた農村である。小千谷保健所の保健婦に調査してもらつた。

狭山は前述の狭山市の中でも農村的なものとして奥富、水富地区で行ない、農業が主体となつているが東京に近いためにかなり文化の程度は高いといえよう。ここでは保健婦やこちらからの調査員が直接問診して行なつた。

加茂は岐阜県加茂郡七宗村で農業がほとんどであり、加茂保健所の保健婦に調査してもらつた。

日中は大分県速見郡日出町でやはり農業に従事するものが多い。日出保健所の保健婦に調査してもらつた。

III 結

果

1. 予 備 検 査

ここでは項目の検討と検査の信頼性、妥当性などを調べた。

(1) 項目の検討

前述の原案は各項目について簡単な記述があるだけなので別に簡単な手引書を用意した。しかし親に評定してもらう場合には検査用紙だけで記入するので問題に疑義を生ずるようなものもあるかもしれない。東京で調べた場合にはこの問題で、ほとんど疑問になるようなことはなく、ただ理解の(5)「二語文以上をいう」ことに多少理解困難の点があるので、後では注釈を()に入れ(ワンワン・キタ)などの表現の説明を加えた。また情緒の(1)「何かいうとすぐに誰かにくつつきたがりますか」というのは「人に何か言われるとすぐ家の人にくつついたり、たよろうとしますか」に改めた。

しかしさらに農村などで検査をしているうちに、これらの項目では地域に即しないというような意見も出てきたので、かなり大巾の改訂を加えることとなつた。先ず運動機能に関しては原案は主として階段の昇り降りであつたが、この階段というのも駅の階段とかお宮の石段などを考えて評定するようにしていた。ところが階段が全然ないところや、階段といえは納屋に昇る急な階段

だけで子どもには昇せせないという意見も出てきたので、これに代る代替問題を用意することとした。

即ち次のような〔代替問題〕である。

- ・階段をはつてのぼる
- ・かなりよく走れる
- ・いすやおせんからとびおる
- ・片足でとべる

なお合格率は第2表のようになる。(2)「階段を手すりや片手に支えられて昇り降りする」と(3)「ひとりで一段毎に足を揃え昇り降りする」は代替問題の「かなりよく走れる」と「いすやおせんからとびおる」の合格率とほとんど同じで、(4)の「ひとりで足を交互に出して降りる」は代替問題の「片足でとべる」よりは少し難しいが同じ位の合格率であるので代替検査としてさしつかえないと考えた。この場合の採点は最初の元検査を主として採点し、もしこれが利用できない場合は代替検査で採点することとする。

次に操作に関係してもまだ全然絵をかいたことのないという子どもの場合には水あそびや砂あそび等で代替検査を作製した。その合格率は第3表のようで(1)「何かかくが形にならない」、(2)「円い形になつている」、(3)「目、口をかく」に対して代替検査の「水あそびでコップ

第2表 運動代替問題合格率

質問項目	地 域		澁 谷 区						狹 山 市					
	男 女		男 N=33		女 N=21		計 N=54		男 N=40		女 N=49		計 N=89	
	パーセント		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
(1) 階段を這つて昇る			32	97.0	21	100.0	53	98.2	39	97.5	49	100.0	88	98.9
(2) 手すりや片手に支えられて昇り降りする			32	97.0	21	100.0	53	98.2	39	97.5	49	100.0	88	98.9
(3) ひとりで一段毎に足を揃え昇り降りする			27	81.8	19	90.5	46	85.3	28	95.0	38	77.5	66	74.2
(4) ひとりで足を交互に出して降りる			17	51.5	9	42.8	26	48.1	19	47.5	29	59.2	48	53.9
代 替 問 題	かなりよく走れる		31	93.9	17	80.9	48	88.8	36	90.0	47	95.8	83	93.3
	いすやおせんからとびおろる		32	97.0	19	90.5	51	94.4	37	92.5	47	95.8	84	94.4
	片足でとべる		15	45.4	10	47.6	25	46.3	30	75.0	38	77.5	68	76.4

第3表 操作代替問題合格率

質問項目	地 域		澁 谷 区						狹 山 市					
	男 女		男 N=33		女 N=21		計 N=54		男 N=40		女 N=49		計 N=89	
	パーセント		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
○人の顔をかく時														
(1) 何かかきが形にならない			33	100.0	21	100.0	54	100.0	33	82.5	44	89.8	77	86.5
(2) 円い形になっている			26	78.8	19	90.5	45	83.3	27	67.5	38	77.5	65	73.0
(3) 目、口をかく			14	42.4	15	71.4	29	53.7	19	47.5	31	63.3	50	56.2
(4) 眉、毛髪をかく			9	27.3	11	52.3	20	37.0	9	22.5	16	32.6	25	28.1
代 替 問 題	キャラメルの紙がむける		32	97.0	21	100.0	53	98.2	40	100.0	47	95.9	87	97.7
	水あそびでコップからコップに水が移せる		33	100.0	19	90.5	52	96.3	40	100.0	47	95.9	87	97.7
	砂や泥でお団子を作つてあそべる		21	63.6	15	71.4	36	66.6	36	90.0	45	91.8	81	91.0
	糊を使つて紙をはりつけることができる		18	54.5	14	66.6	32	59.2	27	67.5	37	75.5	64	71.9

からコップに水が移せる」、「砂や泥でお団子を作つてあそべる」、「糊を使つて紙をはりつけることができる」の問題をいれかえることとし、最後の(4)「眉、毛髪をかく」問題はかなり困難で従つて高級な問題であるので最後の問題として位置づけることとした。

〔代替問題〕

- ・水あそびでコップからコップへ水をうつすことができる
- ・砂や泥でお団子を作つてあそべる
- ・糊を使つて紙をはりつけることができる

・人の顔をかく時眉、毛髪を描く

(2) 信 頼 性

次に本検査は母親自身に判断してもらうこともあるし、また保健婦やその他の第三者の人が判断する場合もある。従つて母親と第三者の間の一貫性を明らかにしていくことが大切なことと思う。このために東京の某団地における幼児グループ(3、4才)について母親の評価と受持の先生の評価との一致度を調べてみた。先ず項目

第4表 母親と教師の一致度
運 動

検 査 問 題	一致度
1) 階段をはつてのぼる	100.0%
2) 手すりや片手に支えられて降り降りする	100.0
3) ひとりりで一段ごとに両足をそろえ降り降りする	100.0
4) ひとりりで足を交互に出して階段を降りる	96.9
平 均	99.2

操 作

検 査 問 題	一致度
○人の顔を描く時	%
1) 何か描くが形にならない	100.0
2) 円い形になっている	87.5
3) 目、口を描く	90.6
4) 眉、毛髪を描く	78.1
平 均	89.0

理 解

検 査 問 題	一致度
1) 数をとばさないで3つまで言える	90.6%
2) 数をとばさないで5つまで言える	96.9
3) 数をとばさないで10まで言える	96.9
4) 数をとばさないで13まで言える	75.0
5) 二語文以上をいう	96.9
6) 赤、青の名がわかり正しい色をさす	93.7
7) 名前をきかれて名前だけは言える	96.9
8) 名前をきかれて姓名が言える	84.4
9) 僕、私などを使って話す	65.6
平 均	88.5

社 会

検 査 問 題	一致度
1) 友だちと手がつながるようになる	93.7%
2) 友だちの名前が言える	96.9
3) 友だちとけんかをするといいつけにくくなる	59.3
4) 電話ごっこで二人で交互に会話ができる	84.4
5) 人の前で歌を歌ったり、おゆうぎができる	75.0
平 均	81.9

別に両者の一致度をみるに運動についてはほとんど 100 パーセントの一致がみられる。操作、理解、社会については平均 81~89 パーセントの一致度であつて、やさしい問題については一致度が高いが難しい問題になるほど一致度が少なくなつていく。即ちこのような評定においては容易な問題については非常に高い一致度が得られるが、困難な問題になつてくると多少不一致になり、従つて信頼度が低くなるといえる。

(3) 妥 当 性

この検査は三才児のためのものではあるが、二才児相応のもの、また四才児の年齢に応じた問題も含まれている。従つてこれを年齢の異つた子どもに課すれば、ある程度の発達曲線がみられるはずであろう。それで三才前半、三才後半、四才の年齢集団に分けて採点してみた。領域別の平均点を一括表示すれば第5表のようになる。運動領域に関しては男女合計では3.51、3.73、3.93、という程度で若干の増加を示している。他の領域でもほぼ同じ程度である(問題数が違うので直接比較することは困難)。総合点については30.16、34.62、38.10、となり三才前半と四才とでは8点の増加で三才児の二標準偏差分くらいの増加を示している。普通このような検査の場合に年間増加量が二標準偏差分も示すことはほとんどないので、かなり発達診断検査としてよくできたものといつてよからう。

なお以上は平均点の比較であるが得点別の分布頻数を示すと第6表のようになり、三才前半では高得点者がほとんど同じような程度に正常曲線的に近い分布を示している。三才後半群についても同様なことがいえよう。ただ四才児群になると高得点の人が頭打ちとなつて正常な分布を示していない。故に三才児の段階においては正常分布をした発達検査として利用することができよう。即ち発達の遅れたものを選分けただけでなく発達の進んだ優秀児を選分けすることも可能である。

(4) 精薄グループとの比較

精薄児としては四才~七才の21名の幼児についてこの検査で採点してみた。この集団は年齢が三才以上の高年齢者であるのでその点を考慮に入れて、その結果を眺めた。運動機能に関しては平均が3.05点で三才前半よりもなお0.5だけ低い。さらに操作になると1.57で三才前半よりもかなり低く、理解となると1.52で三才前半の5.86に比べて甚しく劣つている。社会、自律はそれほどでもないが、やはり劣つている。しかし情緒の障害の点ではそれほど悪くなく正常児の四才児と同じくらいの点数となつている。総合点でいうと24.04であつて三才前半よりもなお6点も低い。故にこの検査は精薄児のような子が

牛 島 : 三才児の精神発達にかかわるスクリーニングテスト及び精密検診の標準化に関する研究

第5表 領域別平均点

領域	年令		3才前半			3才後半			4才			精薄児グループ		
	男女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
運 動	N		43	36	79	34	45	79	12	17	29	14	7	21
	M		3.40	3.64	3.51	3.82	3.67	3.73	3.83	4.00	3.93	3.07	3.00	3.05
	S.D.		0.81	0.63	0.74	0.45	0.52	0.50	0.55	0.00	0.37	1.16	0.93	1.09
操 作	N		43	37	80	34	46	80	12	17	29	14	7	21
	M		2.70	3.22	2.94	3.21	3.46	3.35	3.67	3.77	3.72	1.43	1.86	1.57
	S.D.		1.18	1.04	1.12	0.96	0.74	0.85	0.47	0.55	0.52	0.82	0.64	0.79
理 解	N		43	37	80	33	45	78	12	17	29	14	7	21
	M		5.58	6.19	5.86	6.73	7.22	7.01	7.42	8.06	7.79	1.50	1.57	1.52
	S.D.		1.69	1.83	1.60	1.46	1.56	1.54	1.61	0.80	1.24	1.88	1.68	1.82
社 会	N		42	37	79	34	46	80	12	16	28	14	7	21
	M		3.31	3.86	3.57	3.76	4.11	3.96	3.75	4.31	4.07	2.00	2.14	2.05
	S.D.		1.06	1.10	1.12	0.94	0.23	1.01	1.09	0.77	0.96	1.41	1.12	1.33
自 律	N		43	37	80	34	46	80	11	13	24	14	7	21
	M		6.98	7.54	7.24	7.18	8.20	7.76	9.00	9.23	9.13	5.14	4.71	5.00
	S.D.		1.64	1.85	1.76	1.72	1.47	1.68	1.48	0.97	1.23	2.29	1.48	2.07
情 緒	N		33	32	65	27	40	67	11	16	27	9	2	11
	M		7.61	7.53	7.57	7.56	7.88	7.75	8.55	8.38	8.44	8.44		8.45
	S.D.		1.58	1.17	1.39	1.42	1.63	1.58	1.23	1.76	1.57	1.89		1.72
総合点	N		33	31	64	26	39	65	10	12	22			11
	M		27.05	33.47	30.16	33.42	35.42	34.62	38.20	38.00	38.10			24.04
	S.D.		3.40	3.60	4.73	1.59	3.56	3.58	1.56	2.96	2.45			4.65

第6表 総合点得点分布表

得点	年令		3才前半		3才後半		4才		精薄児グループ	
	男女	計	男	女	男	女	男	女	男	女
13~15点										1
16~18										
19~21	3	1	4							2
22~24	5	5		1	1					5
25~27	12	1	13	1	1					1
28~30	9	3	12	5	3	8				
31~33	4	10	14	9	6	15	1	1		2
34~36		13	13	7	17	24	2	4	6	
37~39		3	3	4	9	13	7	3	10	
40~				3	3	1	4	5		
計	33	31	64	26	39	65	10	12	22	11

かなりはつきりと選分けることができるといえよう。

以上は平均点から比較したわけであるが、このスクリ

ーニングテストは発達指数などで表わすのではなく、ある規準以下を要精密検査児として選分けられるものである。いま総合点の規準点を三才前半の25点を規準として評価してみる。即ち25点以上は問題のないもので24点以下が問題視されるわけであるが、正常児群の中には15.6%であるのに対して、精薄児群では72.7%になっている。なお領域別に比較すると第7表のようになる。

第7表 正常児群と精薄児群の比較

領域	正常児群 N=80	精薄児群 N=21
運 動	7.6%	33.4%
操 作	10.6	42.9
理 解	12.0	90.5
社 会	13.2	66.7
自 律	13.1	47.6
情 緒	22.0	18.2
総合点	15.6	72.7

即ち運動機能については精薄グループはそれほど悪くはないが、これは年令がすでに四才~七才になっている

ためである。しかし理解においては大部分の90.5パーセントが問題児として選分けられている。社会、自律においてもかなりのものが問題児群の方に入ってくる。前にも述べたようにこの精薄児群は年齢がはるかに進んでいるにもかかわらず、これだけ多くのものが問題児として選分けられるので、かなり有効なスクリーニングテストといつてよからう。

(5) 領域間の相関

三才児100名について領域間の相互相関をとつたが第8表のようになり領域相互の相関は非常に低く、理解と操作、社会と自律の間にいくらか関係がある程度で他は

相関が少なく、それぞれ独立的であるといえる。しかし総合点との相関では理解、社会、自律、操作はかなり高い関係を示しており、運動と情緒とは総合点との関係も少し低くなつている。従つてこの検査を構成している各領域はそれぞれ独立的であるが、全体の精神発達とは関係の深い項目であり、従つてこれらの諸領域を総合して判定することの必要さを感じる。またその中でも情緒は特に特殊な領域となつている。運動は比較的容易な問題から構成されているので総合点との関係は低いが、特に運動機能に欠陥のあるものを見出すためには有効なものといえよう。

第8表 領域間相互相関 N=100

		運 動	操 作	理 解	社 会	自 律	情 緒
運 動		/					
操 作	r PEr	+ 0.151 0.066	/				
理 解	r PEr	+ 0.053 0.067	+ 0.234 0.065	/			
社 会	r PEr	- 0.018 0.067	+ 0.125 0.064	+ 0.231 0.064	/		
自 律	r PEr	+ 0.079 0.068	+ 0.030 0.067	+ 0.229 0.061	+ 0.299 0.066	/	
情 緒	r PEr	- 0.049 0.068	+ 0.013 0.067	+ 0.174 0.067	- 0.009 0.067	+ 0.140 0.061	/
総 合 点	r PEr	+ 0.327 0.060	+ 0.433 0.055	+ 0.549 0.047	+ 0.539 0.048	+ 0.510 0.051	+ 0.260 0.063

2. 本 検 査

予備検査は主として東京地区において行なつたのでそれだけで全国規準を設定することは適当でない。それで初めにも述べたように小都市、町村についても、いくつかの場所において施行した。この場合対象児の年齢についていえば渋谷地区のように三才一か月児を中心として行なわれたところもあるし、また一年に一回しか施行されないような場所、従つて平均年齢が三才五、六か月になつていようなところも含まれている。また方法としても東京や小都市では母親が評価したものが大部分であるが、町村では保健婦や調査員が面接の上評価したものも多い。このような相違があるので直接都鄙間の比較をすることは正しくないかもしれない。しかし一応東京、小都市、町村の三つに大別してその平均点を調べてみた。なお東京では予備調査で調べた三才児をも加算した。従

つて年令的にいえば三才一か月児は少数となり、他とはほぼ似たような平均年齢の三才児といえよう。その結果をみるに運動機能では東京、小都市、町村の順となり東京の方が少し成績がよい。操作では三者ほとんど差がなく、理解では小都市、町村、東京の順となり、社会と自律は町村、小都市、東京というように農村の方がかえつてよい成績となつている。情緒も同様で町村、小都市、東京の順となる。しかし総合点についてはあまり差がなく、むしろ町村、小都市、東京の順になつていた。この差の有意差を検定すると第10表のようになり危険率1%以下の有意差を示している。しかしこれは人数が多いために有意差になるのであつて、この差のもつ心理学的意味からいえば三者はあまり差がなく、少なくとも大都市優越ということは全然ないという程度に解釈すべきであろう。(第1図参照)

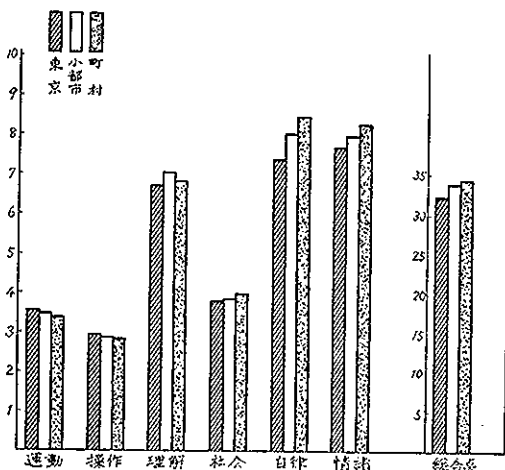
即ち普通の知能検査の場合は大都市と農村の間に一標

第9表

都 鄙 別・男 女 別 M. S. D.

領 域	地 域 性	東 京			小 都 市			町 村(葛巻を除く)			合 計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
運 動	N	155	133	288	328	347	675	157	193	350	640	673	1,313
	M	3.47	3.53	3.50	3.43	3.44	3.44	3.43	3.31	3.36	3.44	3.42	3.43
	S. D.	0.74	0.66	0.70	0.80	0.80	0.77	0.80	0.91	0.86	0.78	0.81	0.80
操 作	N	155	135	290	328	347	675	157	193	350	640	675	1,315
	M	2.62	3.20	2.89	2.69	3.00	2.86	2.68	2.92	2.81	2.69	3.03	2.85
	S. D.	1.10	0.98	0.86	1.11	1.05	1.06	1.01	1.02	1.02	0.50	1.03	1.02
理 解	N	154	134	288	328	347	675	157	193	350	639	674	1,313
	M	6.37	6.94	6.64	6.90	6.98	6.94	6.66	6.83	6.76	6.71	6.93	6.82
	S. D.	1.60	1.63	1.64	1.45	1.47	1.46	1.60	1.33	1.46	1.54	1.47	1.51
社 会	N	154	135	289	328	347	675	157	193	350	639	675	1,314
	M	3.57	4.07	3.77	3.65	3.97	3.82	3.88	4.08	3.99	3.69	4.01	3.85
	S. D.	1.08	1.00	1.09	1.14	1.05	1.11	1.03	0.97	1.05	1.10	1.03	1.08
自 律	N	155	135	290	328	347	675	157	193	350	640	675	1,315
	M	6.92	7.76	7.31	7.44	8.43	7.95	8.07	8.65	8.39	7.47	8.36	7.92
	S. D.	1.76	1.58	1.75	1.83	1.47	1.72	1.42	1.43	1.45	1.77	1.52	1.70
情 緒	N	121	115	236	290	312	602	153	188	341	564	615	1,179
	M	7.48	7.79	7.63	7.89	7.88	7.89	8.20	8.23	8.22	7.89	7.97	7.93
	S. D.	1.59	1.31	1.51	1.52	1.50	1.51	1.43	1.40	1.43	1.54	1.45	1.50
総 合 点	N	120	113	233	290	312	602	153	188	341	563	613	1,176
	M	30.05	34.15	32.04	32.58	34.41	33.54	33.44	34.65	34.11	32.29	34.44	33.41
	S. D.	4.51	3.54	4.56	4.49	4.02	4.35	4.38	3.95	4.18	4.63	3.92	4.40

第1図 都 鄙 別 平均 点



第10表 都 鄙 間 の 差 の 検 定

東 京 : 小 都 市	t = 9.21
東 京 : 町 村	t = 11.30
小 都 市 : 町 村	t = 4.10

準備差分くらいの差で大都市の方が優秀になるものであるが、三才児についてはそのような都市優越の傾向は表われず、逆に町村の方が一番優秀となり、従来の結果と反対の事実が表われた。なお領域別に考えると都会児が進んでいると考えられがちな操作、理解の面でも必ずしも都会が優れず大差ない姿であり、かえって運動機能の面で都会児が進んでいた。社会的能力の面では農村の方が優れているし、情緒の安定度においても同様である。従って幼児の育つ環境としては東京必ずしもよくはなく、町村の方がかえってよいという結果があらわれた。なおこの点を調査地区別に分けて詳しく眺めてみよう。

まず東京は渋谷と、愛育研究所その他に分けた。前にも述べたように渋谷の方は三才児か月児で少し若い。し

かし総合点で比べると1点足らずの違いで大差なく、領域別にみると渋谷の方は理解で少しく優り、他の領域では少しく劣っている。故に東京内の差は僅少であるといえよう。(第11表)

次に小都市をみるに小千谷(36.24)、狭山(34.51)新津(32.79)、宮古(31.83)、横浜(31.50)であつて小千谷と狭山が少しく点数が高いが他はほとんど差がない。領域別にみるに運動は小千谷、横浜、狭山、新津の順となり宮古はかなり劣っている。操作は小千谷がよくて新津、宮古、狭山は同点、横浜が少し劣っている。理解は小千谷がかなりよく狭山、新津これに次ぎ、宮古と横浜が悪い。社会では小千谷、狭山がよく、横浜、新津は劣る。自律では小千谷、狭山がよく横浜が下位となる。情緒では小千谷、宮古がよく、新津、横浜が劣っている。このように領域別に多少の違いがあるが小千谷、狭山がよくてかえつて東京に近い横浜市の神奈川区が劣っているのも大都市優位の考えを否定している。(第12表)

町村においては総合点では小出(38.90)が最も優れ、狭山、加茂、日出は同じくらいである。なお葛巻はひどく劣っているけれども、これは前にも述べた特に辺鄙な山村であつたことと、運動、操作では階段の問題も人物画をかくことも悪く、しかも代替問題はまだ用意されていなかったのもこのような結果になつたと考えられる。そこで先ほどの町村の合計点の場合にはこの地区だけは省いて集計した。領域別にみるに運動機能では葛巻を除いて考えれば大差がない。操作では小出が特に優れていた。理解では狭山、小出、加茂、日出、葛巻の順となつている。社会では狭山、加茂、日出がよく、小出、葛巻がそれに次ぐ。自律では小出がよくて狭山、加茂、日出は同数くらい、葛巻は下位である。情緒では小出、狭山、加茂、日出、葛巻の順となつている。即ち小出は総合点においては最も高かつたがそれは操作と情緒において特に優れていた。町村の地区別の結果からは葛巻を除いて考えれば大差があるわけではなく、しかも揃つて東

第11表 地区別・男女別 M. S. D. (東京)

領域	地域 性	渋谷			幼児グループ他		
		男	女	計	男	女	計
運 動	N	78	52	130	77	81	158
	M	3.36	3.33	3.35	3.59	3.65	3.62
	S. D.	0.75	0.73	0.74	0.71	0.57	0.64
操 作	N	78	52	130	77	83	160
	M	2.32	2.97	2.58	2.92	3.35	3.14
	S. D.	1.10	1.06	1.09	1.09	0.90	1.02
理 解	N	78	52	130	76	82	158
	M	6.65	7.23	6.88	6.08	6.76	6.43
	S. D.	1.47	1.35	1.45	1.69	1.76	1.76
社 会	N	78	52	130	76	83	159
	M	3.62	4.02	3.78	3.51	4.00	3.77
	S. D.	1.12	1.03	1.10	1.03	1.06	1.07
自 律	N	78	52	130	77	83	160
	M	6.77	7.52	7.07	7.07	7.90	7.50
	S. D.	1.82	1.46	1.72	1.68	1.68	1.73
情 緒	N	61	43	104	60	72	132
	M	7.38	7.91	7.60	7.58	7.72	7.66
	S. D.	1.66	1.03	1.46	1.51	1.46	1.48
総 合 点	N	61	43	104	59	70	129
	M	30.24	33.48	31.58	29.86	34.55	32.41
	S. D.	4.31	3.15	4.27	4.55	3.71	4.72

第12表 地区別・男女別 M. S.D. (小都市)

領域		地域		宮古市			新津市			小千谷市			狭山市			横浜市		
		性	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
運 動	N	12	26	38	124	147	271	29	25	54	123	120	243	40	29	69		
	M	2.33	3.00	2.79	3.46	3.43	3.44	3.79	3.52	3.67	3.41	3.51	3.46	3.48	3.59	3.52		
	S.D.	1.03	0.96	1.03	0.78	0.82	0.80	0.47	0.75	0.64	0.81	0.73	0.78	0.66	0.66	0.67		
操 作	N	12	26	38	124	147	271	29	25	54	123	120	243	40	29	69		
	M	2.50	3.00	2.84	2.72	2.96	2.85	3.00	3.40	3.19	2.65	3.04	2.84	2.53	2.76	2.62		
	S.D.	0.65	1.00	0.93	1.58	1.10	1.12	0.86	0.69	0.82	1.02	1.00	1.02	1.16	1.19	1.18		
理 解	N	12	26	38	124	147	271	29	25	54	123	120	243	40	29	69		
	M	6.42	6.35	6.37	6.71	7.02	6.85	7.62	7.64	7.63	7.18	7.10	7.14	6.25	6.52	6.36		
	S.D.	1.26	1.54	1.46	1.49	1.57	1.54	1.19	1.16	1.18	1.30	1.38	1.37	1.61	1.07	1.14		
社 会	N	12	26	38	124	147	271	29	25	54	123	120	243	40	29	69		
	M	3.75	3.92	3.87	3.35	3.71	3.55	4.28	4.24	4.26	3.97	4.24	4.10	3.13	3.97	3.48		
	S.D.	1.16	1.00	1.06	1.15	1.21	1.18	0.98	0.65	0.84	1.03	0.84	0.94	1.05	1.22	1.20		
自 律	N	12	26	38	124	147	271	29	25	54	123	120	243	40	29	69		
	M	6.50	7.73	7.34	7.23	8.24	7.77	8.45	9.00	8.71	7.80	8.92	8.35	6.50	7.48	6.91		
	S.D.	1.76	1.35	1.59	1.86	1.57	1.97	1.27	1.27	1.30	1.73	1.15	1.56	1.73	1.48	1.67		
情 緒	N	12	24	36	106	131	237	28	25	53	111	108	219	33	24	57		
	M	8.33	8.38	8.36	7.73	7.54	7.62	8.50	8.20	8.36	7.94	8.19	8.04	7.58	7.75	7.64		
	S.D.	0.85	1.41	1.25	1.59	1.57	1.58	1.27	1.20	1.25	1.53	1.37	1.47	1.46	1.56	1.50		
総 合 点	N	12	24	36	106	131	237	28	25	53	111	108	219	33	24	57		
	M	30.25	32.63	31.83	31.90	33.55	32.79	36.03	36.46	36.24	33.42	35.64	34.51	30.04	33.50	31.50		
	S.D.	4.91	3.81	4.36	4.53	3.39	4.38	3.31	3.67	3.49	3.95	3.62	3.94	4.26	3.43	4.28		

京地区よりもよい成績を示している。(第13表)

以上の結果は従来の予想をくつがえすもので大変興味深い。三才児までの乳幼児については東京は決して好ましい条件ではないともいえるし、また日本の乳児たちはその人生の当初にあたつては何らの地域的ハンディキャップなしに育つてるといつてもよかろう。学童期以後になると前述のように著しい都鄙間の差があらわれ、知能の発達では大都市が最優秀になるが、これはその後の教育条件や文化条件、親の教育的態度の相違によるものであると思われるので、小都市や農村に対しては一層の努力を要求したい。町村の子どもは素質的に劣るといふことは考えられないし、否この三才児においてはかえつて望ましい成長を示しているだけに問題を強く感ずる。

以上のような傾向であるので規準設定にあつては大都市、小都市、町村の差をあまり考慮する必要がないと考えられる。われわれの資料では小都市の人数が最も多かつただけに全体を合計したものがほぼ全国規準に近いものと推定してさしつかえなからう。

次に男女別についてみるに、総合計では平均点が男32.29、女34.44で、女児の方がかなり高くなつてゐる。

($t=17.9$ $P<.01$) 領域別では運動、情緒では大差がなく、操作、社会、自律が特に女児の方が高い得点を得ている。運動と情緒はかなり特殊な領域であるが差がなく、知能や社会的能力において女児がかなり進んでいるといわねばならない。しかし規準設定にあつては男女別に設定するよりも同じ規準にする方が望ましい。

第13表 地区別・男女別 M. S.D. (町村)

領域	地域性	葛 巻			小 出			狹 山			加 茂			日 出		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
運 動	N	21	20	41	31	40	71	43	60	103	48	46	94	35	47	82
	M	2.67	2.85	2.76	3.26	3.33	3.30	3.49	3.30	3.38	3.46	3.28	3.37	3.46	3.34	3.39
	S.D.	0.94	0.96	0.96	0.83	0.82	0.83	0.76	0.94	0.86	0.87	1.01	0.94	0.69	0.83	0.78
操 作	N	21	20	41	31	40	71	43	60	103	48	46	94	35	47	82
	M	2.24	2.05	2.15	3.23	3.25	3.24	2.47	2.72	2.61	2.69	3.04	2.86	2.46	2.79	2.65
	S.D.	1.04	1.47	1.44	0.79	0.91	0.90	0.92	0.93	0.94	1.02	1.00	1.03	1.08	1.15	1.13
理 解	N	21	20	41	31	40	71	43	60	103	48	46	94	35	47	82
	M	5.24	5.00	5.12	7.03	6.95	6.99	7.00	7.03	7.02	6.67	6.80	6.73	5.91	6.49	6.24
	S.D.	1.57	1.87	1.86	1.40	1.07	1.23	1.66	1.24	1.43	1.41	1.33	1.37	1.70	1.55	1.64
社 会	N	21	20	41	31	40	71	43	60	103	48	46	94	35	47	82
	M	3.48	3.75	3.61	3.65	3.25	3.80	4.12	4.05	4.08	3.88	4.15	4.01	3.80	4.17	4.01
	S.D.	1.18	1.26	1.23	1.09	0.56	1.02	0.91	0.94	0.93	1.09	0.98	1.04	0.98	1.04	1.03
自 律	N	21	20	41	31	40	71	43	60	103	48	46	94	35	47	82
	M	7.10	7.65	7.37	8.52	8.75	8.65	8.19	8.52	8.38	7.88	8.80	8.33	7.80	8.60	8.26
	S.D.	1.80	2.29	2.07	1.04	1.56	1.37	1.28	1.27	1.28	1.56	1.48	1.59	1.53	1.44	1.53
情 緒	N	20	20	40	31	40	71	43	60	103	47	46	93	32	42	74
	M	7.90	7.25	7.58	8.29	8.45	8.38	8.37	8.37	8.37	8.09	8.09	8.09	8.06	8.00	8.03
	S.D.	1.41	2.14	1.84	1.35	1.16	1.25	1.48	1.48	1.48	1.43	1.40	1.41	1.56	1.43	1.49
総 合 点	N	20	20	40	31	40	71	43	60	103	47	46	93	32	42	74
	M	28.75	29.50	29.13	34.34	34.98	38.70	33.97	34.45	34.25	33.20	34.78	33.98	32.23	34.50	38.54
	S.D.	4.55	5.77	5.21	3.93	3.95	3.94	4.30	3.94	4.08	4.96	3.82	4.50	3.61	4.04	4.03

IV 規 準 点 の 設 定

スクリーニングテストの目的は精神発達の水準をはかるよりも要精密検査の問題児を選びだすことにある。この問題児はあまりにも数多くなつたのではスクリーニングテストの意味をなさない。15.6パーセントのものをふるいわけ、その中からさらに少数の本当の問題児を検査するのが望ましい。そのために平均点ではなく、それから一標準偏差分だけ低いところに規準線を引くこととした。また同じ三才児といつても前半と後半とはかなり相違するので総合点の場合は三才前半と三才後半を別々に規準線を設定することとした。即ち三才前半では総合点が25点以上が問題のないもの、24点以下が要精密検査児とすることとした。後半では27点以下を問題児と考える。また領域別にもそれぞれ規準点を明らかにすることとした。問題がないとみなされる最低点数は第14表のようである。

第14表 規 準 点

領 域	最低規準点
運 動	3 点
操 作	2 //
理 解	5 //
社 会	3 //
自 律	6 //
情 緒	7 //
総 合 点	{ 3才前半 25 //
	{ 3才後半 28 //

V ま と め

三才児検査にあたり精神発達や情緒障害を調べるためのスクリーニングテストを作製することとした。知能、社会的能力、情緒の三領域について林祐三、菅野重道、篠原清彦の三氏が予備研究を行ない、適当な検査項目を選びだした。

これらのものから一つの検査にまとめあげた。これは保健所の保健婦が容易に使用でき、また母親自身の評価によつても記入できる程度のものであり、5分ないし10分くらいでできることを目標として作った。

予備検査としては東京の160名について行ない、検査項目の検討をし、若干の修正をし、またその後運動と操作に関しては代替問題を作ることにした。

この検査を母親が評価した場合と教師が評価した場合には非常に高い一緻度がみられた。しかし問題が上位の難しいものになるほど一緻度は減少してくる。

この検査は三才前半と四才児との間には二標準偏差分くらいの差があらわれて発達診断検査として充分役に立つ。

また年長の精薄児グループと正常児との間には大きな差があらわれ、要精密検査児は正常児群の中では15.6パーセントであるのに対して精薄児群では72.7パーセント

となつている。

テストを構成している領域間、運動、操作、理解、社会、自律、情緒の相関は低くてそれぞれ独立性をもっているが総合点との相関はかなり高い。従つてここで調べたような各領域から総合的に診断することが必要である。

本検査は東京290名、小都市675名、町村391名、合計1,356名について行なつた。その結果都鄙間の差は農村、小都市、東京という順になり、東京は優秀であるという結果は全然あらわれておらず、従来の予測に反し、また年長児童の知能においてみられる都市の優越性もみられない。むしろ東京は三才までの乳幼児の育つ環境としては望ましくないという結果となつた。なお東京都内、小都市内の各地区および町村内の各地域差はそれほど大きくない。

男女間では女児がかなり優れている。(総合点の平均点男23.29、女34.44)

以上の資料に基づき規準線として総合点で三才前半25点、後半28点とした。従つて24点ならびに27点以下のものは精密検査を必要とするものと判定する。

(注) 本研究にあたり津守真氏の協力を得、またこの中に記入されている多くの保健所の協力を得たことを感謝したい。なお本研究は昭和39年度厚生科学研究補助金によるものである。

〔附〕 三才児スクリーニングテストの手引

方法

- 1) 本検査は母親、またはそれに代る人に記入してもらい、保健婦が不備な点をたしかめて補足する。
- 2) 本検査は運動、操作、理解、社会、自律、情緒の6領域から構成されている。
- 3) 運動、操作、理解、社会、自律の問題は、子供ができるものに○印をつけ、情緒の問題は、はい、いいえのどちらか該当する方に○印をつける。
- 4) 記入が終わったら各領域毎に素点を出し、6領域の素点を合計して総合点とする。

素点の出し方は各領域毎に○印のついた問題の数を数え素点とする。但し運動、操作および理解の(4)までは○印のついた最高問題番号を素点とする。たとえば運動(3)に○印がついていればたとえ(1)(2)に○印がついていなくても(1)(2)はできるものとみなし、運動の素点は3点となる。理解は(1)から(4)までの○印のついた最高問題番号と(5)～(9)までの○印の数を加え素点とする。たとえば理解(3)(5)(7)に○印がついていれば理解の素点は5点となる。情緒はいいえについて○印の数を素点とする。

5) 運動および操作には代替問題が設けてある。これは本検査問題が都会的傾向をもっているので、階段のない地区や絵など描かせたことがない場合は代替問題によって採点してよい。素点の出し方は運動および操作の本検査の場合と同様である。

6) 素点の最低規準点は、運動3点、操作2点、理解5点、社会3点、自律6点、情緒7点、総合点3才前半25点、3才後半28点であるからこれ以上の点数なら問題なしとみてよい。

領 域	最 低 規 準 点
運 動	3 点
操 作	2 //
理 解	5 //
社 会	3 //
自 律	6 //
情 緒	7 //
総 合 点	3才前半 25 //
	3才後半 28 //

検 査 問 題 (解説)

運 動

(1)階段を這つてのぼる

3、4段のゆるやかな階段を手をついて這つてのぼれば合格。(階段の傾斜はあまり急でないもの、都会なら駅の階段、いなかでは神社の石段程度、以下(4)まで同様。)

(2)手すりや片手に支えられて昇り降りする

手すりにつかまっつて、または片手をひいてやれば階段を昇り降りできればよい。足は交互に出しても1段ずつ揃えてもよい。

(3)ひとりで1段毎に両足をそろえ昇り降りする

手すりなどにつかまらずに、片足を出したらもう一方の足をその段まではこび、1段毎に両足をそろえて昇り降りできればよい。

(4)ひとりで足を交互に出して階段を降りる

おとなが階段を降りる時のように、手すりなどにつかまらないで足を交互に出して階段を降りられればよい。

〔運動代替問題〕

(1)階段をはつてのぼる

運動(1)と同じ。

(2)かなりよく走れる

すぐにころんだりせず、かなりよく走ることができ

ばよい。

(3)いすやおせんからとびおる

いすや机など30～40cmの高さからびよんととびおりられればよい。

(4)片足でとべる

片足とび(けんけん)ができればよい。2、3回ではだめである。

操 作

(1)人の顔を描く時、何か描くが形にはならない人の顔について描くが、まだ形になつていない。

(2)円い形になつている

顔のりんかくの円だけかければよい。

(3)目、口を描く

顔に目と口がどんな形でもかければよい。

(4)眉、毛髪を描く

顔に眉、毛髪がどんな形でもかければよい。

〔操作代替問題〕

(1)水あそびでコップからコップへ水をうつすことができる

水あそびで水の入つているコップから他のコップへ水をうつしかえることができればよい。

(2)砂や泥でお団子を作つてあそべる

砂や泥でお団子が作れればよい。

(3)糊を使って紙をはりつけることができる

まとまつた一つのものを作りあげなくても、糊を使って紙をはり合わせることであればよい。

(4)人の顔を描く時、眉、毛髪を描く

操作(4)に同じ。

理 解

(1)数をとばさないで3つまで言える

実物を数えるのではなく、口だけでとばさずに3つまで唱えられればよい。

(2)数をとばさないで5つまで言える

(1)と同様に5つまで唱えられればよい。

(3)数をとばさないで10まで言える

(1)と同様に10まで唱えられればよい。

(4)数をとばさないで13まで言える

(1)と同様に13まで唱えられればよい。

(5)二語文(ワンワン、キタなどの表現)以上をいう

二語文以上がいえればよい。

(6)赤、青の名がわかり正しい色をさす

赤、青の色を区別して「アカ」「アオ」といえればよい。また自分では言えなくても赤、青の色が区別できればよい。青は水色、空色でもよい。

(7)名前をきかれて名前だけは言える

人に名前をきかれて自分の名前だけ言えればよい。

(8)名前をきかれて姓名が言える

人に名前をきかれて姓名が言えればよい。(7)(8)とも発音が不正でもよい。

(9)僕、私などを使って話す

ボク、ワタシなどの代名詞を会話にいれて話せばよい

社 会

(1)友だちと手がつなげるようになる

友だちと手がつなげればよい。こちらから積極的につなげれば勿論よいが、相手の子どもから手をつながされてそれに応じていてもよい。

(2)友だちの名前が言える

友だちの名前が言えればよい。たとえば「誰とあそんだの」ときいてその友だちの名前が言えればよい。名前はヨツチヤン、ター坊の愛称でもよい。

(3)友だちとけんかすると言いつけにくる

友だちとけんかしてぶつたとかぶたれたとか母に言いつけにくればよい。ただ泣いて母のところにくるだけではだめである。

(4)電話ごっこで二人で交互に会話ができる

子ども同士で単に「モンモン」「ハイ」だけでなく、

交互に割に筋の通つた応答ができればよい。電話をみたことがなく、従つて電話ごっこをしたことがない場合は、友だち同志で単なる「コレチョーダイ」などの要求でなく、筋の通つた会話ができればよい。

(5)人の前で歌を歌つたりおゆうぎができる

親せきの人や幼稚園などに行つている子なら皆の前で歌つたりおゆうぎができればよい。

自 律

(1)靴をひとりでぬぐ

長靴やボタン、ひものない靴がひとりでぬげればよい。

(2)上衣をひとりでぬぐ

前の開いたものなら一人でぬげればよい。

(3)上衣をひとりで着る

簡単な上衣がひとりで着られればよい。かぶるのほできなくてもよい。

(4)簡単なひも結びがほどける

ちよう結び、こま結びなどがほどければよい。ひつばつていたら偶然ほどけたというのではだめである。

(5)大便をまちがいなく教える

大便が出る前に失敗なく教えられればよい。

(6)おしつこの前に教える

おしつこが出る前に教えればよい。(5)(6)とも完全に自律していて、一々親に予告せずに一人で用が足せる場合は勿論○印をつけてよい。

(7)夜はおむつを使わなくてすむようになった

夜のおむつが必要なくなればよい。

(8)パンツをとつてひとりで用をたす

おしつこを予告するだけでなく、自分でパンツをとつて用が足せればよい。後始末はできなくてもよい。また沢山着ている時は上のズボンをとつてやればできるといふのもよい。

(9)ひとりで手を洗う

命ずれば自分で手を洗うことができればよい。

(10)ひとりで顔を洗う

自分で顔が洗えればよい。石けんは使えなくてもよい。

情 緒

(1)~(10)の質問に該当すれば「はい」に○印をつける。

○ 注 意

1) 理解(5)は二語文以上言えれば勿論○印であるが、現在二語文しかいえない場合にのみ○印をつけるものと感違いする人がいるので、この問題に○印がついていない場合は一応たしかめてみることにする。

2) 理解(8)ができるものは(7)もできるとみなし○印をつけてよい。

3) 自律(7)は現在夜のおむつを使つていなければ勿論○印であるが、質問の意味をとり違える人がいるので、この問題に○印がついていない場合は一応たしかめてみることにする。

4) 情緒(2)で間食もほしがらずごはんも食べない場合は「はい」に○印、反対に間食もごはんもよく食べる場合は「いいえ」に○印をつける。

検 査 問 題

下記の各問題で、お子さんがあてはまるものの□の中に○印をつけて下さい。
 情緒の問題は「はい」「いいえ」のどちらかに○印をつけて下さい。

- | | |
|--|--|
| 運
動 | (1) <input type="checkbox"/> 階段をはつてのぼる |
| | (2) <input type="checkbox"/> 手すりや片手に支えられて昇り降りする |
| | (3) <input type="checkbox"/> ひとりで一段ごとに両足をそろえ昇り降りする |
| | (4) <input type="checkbox"/> ひとりで足を交互に出して階段を降りる |
| 運
動
代
替
問
題 | (1) <input type="checkbox"/> 階段をはつてのぼる |
| | (2) <input type="checkbox"/> かなりよく走れる |
| | (3) <input type="checkbox"/> いすやおぜんからとびおる |
| | (4) <input type="checkbox"/> 片足でとべる |
| 操
作 | 人の顔を描く時 |
| | (1) <input type="checkbox"/> 何か描くが形にはならない |
| | (2) <input type="checkbox"/> 円い形になっている |
| | (3) <input type="checkbox"/> 目、口を描く |
| 操
作
代
替
問
題 | (4) <input type="checkbox"/> 眉、毛髪を描く |
| | (1) <input type="checkbox"/> 水あそびでコップからコップへ水をうつすことができる |
| | (2) <input type="checkbox"/> 砂や泥でお団子を作つてあそべる |
| | (3) <input type="checkbox"/> 糊を使つて紙をはりつけることができる |
| 理
解 | (4) <input type="checkbox"/> 人の顔を描く時、眉・毛髪を描く |
| | (1) <input type="checkbox"/> 数をとばさないで3つまで言える |
| | (2) <input type="checkbox"/> 数をとばさないで5つまで言える |
| | (3) <input type="checkbox"/> 数をとばさないで10まで言える |
| | (4) <input type="checkbox"/> 数をとばさないで13まで言える |
| | (5) <input type="checkbox"/> 二語文(ワンワン、キタなどの表現)以上をいう |
| | (6) <input type="checkbox"/> 赤、青の名がわかり正しい色をさす |
| | (7) <input type="checkbox"/> 名前をきかれて名前だけは言える |
| | (8) <input type="checkbox"/> 名前をきかれて姓名が言える |
| (9) <input type="checkbox"/> 僕、私などを使つて話す | |
| 社
会 | (1) <input type="checkbox"/> 友だちと手がつなげるようになる |
| | (2) <input type="checkbox"/> 友だちの名前が言える |
| | (3) <input type="checkbox"/> 友だちとけんかをすると言いつけにくる |
| | (4) <input type="checkbox"/> 電話ごつこで二人で交互に会話ができる |
| | (5) <input type="checkbox"/> 人の前で歌を歌つたり、おゆうぎができる |
| 自
律 | 着 衣 |
| | (1) <input type="checkbox"/> 靴をひとりでぬぐ |
| | (2) <input type="checkbox"/> 上衣をひとりでぬぐ |
| | (3) <input type="checkbox"/> 上衣をひとりで着る |
| 排
泄 | (4) <input type="checkbox"/> 簡単なひも結びがほどける |
| | (5) <input type="checkbox"/> 大便をまちがえなく教える |
| | (6) <input type="checkbox"/> おしつこの前に教える |
| | (7) <input type="checkbox"/> 夜はおむつを使わなくてすむようになった |
| | (8) <input type="checkbox"/> パンツをとつてひとりで用をたす |

自 律	清 潔			
	(9) <input type="checkbox"/> ひとりで手を洗う			
	(10) <input type="checkbox"/> ひとりで顔を洗う			
情 緒	(1) 人に何か言われるとすぐ家の人にくつついたり、たよろうとしますか	は	い	いいえ
	(2) 間食をほしがり、ごはんを余り食べないですか	は	い	いいえ
	(3) たべものに好き嫌いが多くて困りますか	は	い	いいえ
	(4) 弱虫ですか	は	い	いいえ
	(5) どもりますか	は	い	いいえ
	(6) 犬などをこわがりますか	は	い	いいえ
	(7) 衣服などをかじるくせがありますか	は	い	いいえ
	(8) 性器いじりのくせがありますか	は	い	いいえ
	(9) 夜泣きのくせがありますか	は	い	いいえ
	(10) 夜尿のくせがありますか	は	い	いいえ